

「青年海外協力隊 現職参加」

# 馬屋原 愛

MAYAHARA Ai

戦地で開いたコンサート

2014年、世界遺産に登録されたシルクロード。中国と中央アジアを結ぶ交易路に点在する都市や寺院など33の遺跡が対象となり、キルギスでは3つの遺跡が世界遺産となった。

これから観光客の増加が見込まれる中、より多くの人にキルギスを楽しんでもらいたいと奮闘している日本人がいる。青年海外協力隊の馬屋原愛さんだ。

国際協力に興味を持ったのは高校2年生の時。地元の合唱団に所属していた馬屋原さんは、東欧のセルビアでのコンサートに参加するために現地へ。ユーゴスラビア紛争の終結直後で、街中に残る空爆の痕を目の当たりに

## 「観光客にキルギスの魅力を伝えたい」

世界遺産や手付かずの自然が魅力のキルギス。馬屋原愛さんはより多くの観光客に来てもらえるよう、バスの路線図の作成などに取り組んでいる。

## JICA Volunteer Story

PROFILE

1983年神奈川県出身。大学卒業後、近畿日本ツーリスト株式会社に就職。2013年1月から現職参加制度を活用し、青年海外協力隊(観光業)としてキルギスで活動中。



キルギス北東部のタムチ村で、観光案内の資料作成に必要な情報を得るため、地元のゲストハウスのオーナーらと話し合う馬屋原さん(左から2人目)



した。病院や学校などで開いたコンサートでは、「音楽を通じて心を落ち着けることができた」という現地の人々の声を聞き、そのうれしそうな表情が目には焼き付いた。

大学時代には世界各国を旅し、卒業後は旅行会社に就職。修学旅行のアレンジを担当することになった。これまでは同じようなコースを回ることが多かったため、新たな宿泊先や訪問先を探し出し、提案した。「学生さんたちが観光地で楽しんだり、学んだりする様子を見るのがやりがいでした」。

そして入社5年目、会社にボランティア休暇制度ができたことを知る。協力隊の活動に魅力を感じていた馬屋原さんは、このチャンス逃すまいと上司を説得して応募した。

### 観光客として感じた課題を克服

キルギスの首都ビシュケクに本部を構える国内最大規模のNGO、CBT(Community Based Tourism)協会が活動することになった馬屋原さん。国内に15の支所を持ち、観光ツアーの企画やイベントの開催などを通じて、観光業を促進している組織だ。馬屋原さんは観光客にとって何が足りないか、自分の身で体感するために1カ月間国内を回った。

世界遺産である遺跡はもちろん、透明度の高さが魅力のインクタル湖、標高3000メートルに広がる大草原など、美しい自然も魅力のキルギス。そんな観光資源の多さを実感すると同時に、ある課題に気が付いた。「街中の標識や交通機関の表示は全てキルギス語。バスに乗っても行き先が分からず、路線図もないので、バス停がどこなのか分かりませんでした」。

これでは、観光客は移動に困ってしまう。そこで馬屋原さんは、地図上にバス停と順路を示した路線図を作る



a.馬屋原さんたちが作成した路線図。街の地図にバス停や順路、観光スポットなどを載せた  
b.インクタル湖南岸の村で鷹狩りショーを企画。CBT協会の職員と準備をする馬屋原さん  
c.CBT協会の職員が集まった勉強会。キルギスではホイ捨てが多いため、ごみ問題で世界遺産登録が危ぶまれた富士山の事例を紹介した  
d.標高3,000メートルに広がる大草原とソンクル湖。乗馬体験もでき、観光地として人気だ

うと考えた。まずはビシュケク市内のバス停の位置を調べ、路線図のデザインを地元企業に依頼することにした。しかし、「そもそも地図がないので、デザインするのは難しい」と企業側。旧ソ連時代、キルギスでは地図は軍事機密として扱われ、市民が利用することはできなかった。現在も入手が困難で、どれだけ企業を回っても、回答は同じだった。

それでも、あきらめなかった。観光業で地図がいかに重要か、数々の旅行をアレンジしてきた馬屋原さんには痛いほど分かっていただけからだ。行き先を調べるのはもちろん、道に迷った時も地図さえあれば地元の人に聞ける。「地図はどうなった?」と気に掛けてくれる同僚もいて、途中で投げ出したくないと思いました。同僚と手分けして企業回りを続けた。

そして半年後、ついにその努力が実る。地図を持ち、それを基にデザインしてくれる企業を見つけたのだ。ここから路線図の作成は一気に進んだ。地図上にバス停を表示し、路線ごとに順路を色分け。外国人向けに英語の表記も加えた。

完成した路線図は好評だ。各バス会社に配布して車内に掲示してもらい、CBT協会の各支店にも貼り出した。「観光客が路線図を見ながら、どこに行こうか話し合っている様子を見るとやりがいを感じます」と馬屋原さんは笑顔を見せる。

CBT協会のアスルベック・ラジエフさんは「アイさんがキルギスの観光情報を日本の地方自治体のホームページなどで紹介してくれたため、ツアーに参加する日本人が増えています」と話す。

活動期間は残り半年。「世界的にはまだまだ未知の国。もっと多くの観光客を呼び込みたい」と、馬屋原さんは新たな観光地の開拓も始めている。キルギスの魅力を伝えるため、彼女の挑戦は続く。